



Title	想い出すことなど
Author(s)	有岡, 勇
Citation	北海道大學教育學部紀要, 27, 189-190
Issue Date	1976-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/29145
Type	bulletin (article)
File Information	27_P189-190.pdf



[Instructions for use](#)

想 い 出 す こ と な ど

有 岡 勇

Essays of my education of physical training in Hokkaido University

Isamu Arioka

A. 援農，勤労働員など

昭和19年3月，北大予科体錬科担当教官として着任したが，当時学部生には教練は課せられていたが，体錬（体操）武道は予科，専門部のみ正課であり，教官は武道，教練の方は多数居られたが体操は奈良岡先生お1人で正課ばかりでなく学内全体の課外体育に努力して居られた。北大には屋内体育館もなく（教練場に少し手を加えた形ばかりのものはあったが）グラウンドは現在の教養部の所に在り，正門附近の予科からは1km以上も離れて居り，用具も非常に少く，体育の効果を上げるには，どうすればよいか五里霧中と云うのが本音であった。

実際には当時学生には援農，工場動員，飛行場作業が課せられ，一番数のまとまっている予科には頻繁に動員が下り，学習の合間の勤労と云うより，動員の合間に学習すると云う非常事態で，体育の授業も例外では無かった。それぞれ動員された職場でのラジオ体操とか，農作業中に各自が行う体操が代替授業となっていたと云えよう。

本州の軍需工場では敵空襲により勤労学徒にかなりの被害が生じたが，幸い予科生には殆ど犠牲が生じなかった。

一諸に道内の農村に，本州の航空機工場に又，札幌の飛行場作り等に参加した生徒諸君が今日，本学内では中堅教官として研究に指導に活躍されて居り，社会に出た人達も最も重要な地位についてそれぞれ実力を十分に発揮して，予科時代の働きつつ学んだ生活が，少しもマイナスとなっていないことは，皆の日頃の努力の結果と敬服している。

B. 進駐軍と体育館

戦後米軍の進駐により学内の主な建物は彼らの宿舎として借り上げられ，予科本館（現在の大学本部となっている正門前の建物）も同様であって，予科生の教室は，この裏側にあった古い木造建物が使われた。この頃は，学内を夜遅く歩くことは男でも危険で，実際に被害は数多く発生した。

たとえ不十分とは云え今まで体育に使用していた旧体育館も米軍の使用となり，冬には数ヶ所にストーブをつけ，若い米軍の兵士たちが楽しげにいろいろのスポーツに興じているのを予科生は横目で眺めていた。その後米軍が撤退した後，再び予科生の授業に使えるようになったが，彼らの為のストーブは取りはらわれ，彼らがスポーツをするのに低い天井のほりを取りはらった所は補修が出来ず，授業の際，非常な危険を感じ乍ら新体育館が出来るまでこの心配をしつづけた。武道場は戦争末期から（終戦後も数年間）住居難の学生達の仮の寮として転用されていた。

C. 体育の授業

一時、予科と新制大学が併存した時は、我々体育教官の負担は大変なものとなったが、この頃には奈良岡先生と私の他に、中西、宮崎、室木、山崎先生が加わり、講義は天野先生と本田学医が担当された。

学生も戦争から解放されて、スポーツに非常な興味を示し、かつてない盛り上りの時期であった。教育学部に体育専攻の学生が入り彼らが学内の中心となって体育会の活動を活発にし、道内大学の中心的存在として輝かしい記録を樹立した。

保健体育科目が大学の必修科目となったことは我が国体育界の永年の念願にかなったものであり、これにより学生達が体育の必要性を理解し、日常生活化される基盤が出来たことで、我が国教育の一大進歩と云えよう。

新制北大の発足に当り、本学の体育の方向として、楽しい体育の実践により、学生生活の中の日常化を期待し卒業後も家庭に於て卒先し、スポーツ、レクリエーションの推進者となる素地を作らせるために、いくつかの種目を選択履修させることとした。その種目は個人種目、団体種目を平均してとらせることとした。更に北海道大学の卒業生にふさわしく、スキーかスケートをマスターさせることと海国日本の国民として自己の安全を守る程度の泳力をもたせる為に検定制度を設け、実力の無い者の為に、これらの種目の特別講習を実施することとした。

実際に授業を開始して種々の困難が生じた

1. 学生数が多いために、1人1人の学生には運動量の不足を訴える者が出て来た
2. 学生の基礎技術が区々で、指導上いろいろ困難があった
3. 用具施設が不十分で、特に冬期間屋内体育館が一つしかないのは非常に困った
4. 専任教官の増員が無いのに学生数が年々増加し、非常勤教官の協力が必要となった
5. 学生が過度の運動をして、次の授業時間に居ねむりすると他教科の教官からの苦情等

D. 本学学生に適した運動量

学生数が多く、施設が少い為に1人の学生の運動量が少くなる反面、学生が夢中になりすぎて、次の授業他科目の教官から学生が欠席したり疲れて居ねむりするので困るとの苦情が出されたり、高校時代クラブ活動に熱心だった学生からは、レベルが低すぎると云われ、その種目の初心者からはもっと基本から指導してほしいとの意見が出るなどで、教官全員の課題としてこれをどのように解決するか、本学学生に最も適した運動量はどの辺か大いに議論をたたかわしたが、よい成果もないまま、それぞれ教官が自己の経験を生かし、学生の実情を見て判断し、工夫して指導を続けて現在に至っているように思う。

体育研究室も若手教官が揃い、研究の場としての体育館、グラウンド、武道場、更にトレーニングセンターも完成した今日、是非この問題や、北大の於かれた寒冷地の特色を生かした体育についての研究課題を着々解明の方向に進んで行ってほしいと思う。